

「政策形成で大切なこと」

埼玉県総合調整幹付 星 友治

日頃、政策形成で大切だと思っている点が三つある。

一つ目は先進事例を参考にする場合の留意点である。インターネットや書籍などでユニークな事例を集めるのは比較的容易である。しかし、それが本当に成果を上げているかを判断するのは難しい。ともすれば「手段である取組の方に注目しがちであるが、より重要なのは「目的の達成状況である。事業のアウトカムをよく調べ、参考になる事例かを見極めることが重要である。

二つ目は先進事例の仕組みを導入する際の留意点である。ポイントは自団体の地域資源で実現可能かを判断することである。特に、まちおこし系の事業では、担い手をリアルに想定する必要がある。「NPOと連携する」や「市民団体とネットワークを構築する」といった政策が本当に可能かを冷静に判断する必要がある。

三つ目は心構えに関することである。理想や目標を設定する段階では、少し楽観的に考えることも必要ではないか。自治体側の守りの姿勢が透けて見えてしまうと、市民の関心が得られにくいこともある。政策にも夢のある部分があっていいと思う。京セラ名誉会長の稲盛和夫氏は、「楽観的に構想し、悲観的に計画し、楽観的に実施する」ことが新しいテーマに挑戦していく最良の方法だと言う。政策形成にも通じる示唆に富んだ言葉だと思う。